

山梨・大坪遺跡

おおつぼ

- 1 所在地 山梨県甲府市横根町大坪
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12) 五月～九月
- 3 発掘機関 大坪遺跡発掘調査会
- 4 調査担当者 榎原功一
- 5 遺跡の種類 集落跡・生産遺跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(甲府)

大坪遺跡は甲府盆地中央、北縁部の低地、標高二六〇mに立地する。北側の山麓には横根・桜井積石塚古墳群が展開し、東方には川田瓦窯跡、上土器瓦窯跡が存在する。本遺跡ではかつて三度の調査が行なわれ、土師器焼成土坑が数基検出されたことから、奈良時代・平安時代の甲斐型土器の生産遺跡とされる。一九八二年には「甲斐国山梨郡表門」とヘラ書きされた土

師器皿(九世紀後半)が発見され、『和名類聚抄』記載郷名「表門(ウハト)」と一致し、「和戸町」が遺称地であることが判明した。また近年、周辺の調査で小金銅仏、蟬飾りの海老鏡が見つかった。老人ホーム建設に先立って実施された今回の調査では、集落と旧河道が検出された。旧河道地点では、一〇m四方の調査区から多量の木製品(梁・板材・部材・曲物・木皿・木箱・櫛・下駄・斎串・斎串状木製品・刀形・田下駄・糸巻き・付札状木製品・水車車軸・角柱)、七～一〇世紀の土師器類とともに、木簡が一点発見された。これらの中で水車車軸は一〇世紀に遡る資料であり、類例を知らない。ほかに黒漆の残る巡方・円面硯片・瓦塔片・須恵器壺Gなども出土し、本遺跡が宗教施設を備えた郷の中心的な集落であることを示している。なお墨書土器には「道」「石」「大」「第」がある。

8 木簡の釈文・内容

(1)



(152)×18×9 019

文字は二行推測されるが、墨痕は薄く、左右が二次的に削られていたため判読不可能。裏面には墨書はない。



(榎原功一(財)山梨文化財研究所)